

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	令和4年12月15日
【四半期会計期間】	第53期第3四半期（自 令和4年8月1日 至 令和4年10月31日）
【会社名】	株式会社ＯＳＧコーポレーション
【英訳名】	OSG CORPORATION CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 啓輔
【本店の所在の場所】	大阪市北区天満一丁目26番3号
【電話番号】	06（6357）0101（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 安岡 正彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区天満一丁目26番3号
【電話番号】	06（6357）0101（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 安岡 正彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第3四半期連結 累計期間	第53期 第3四半期連結 累計期間	第52期
会計期間	自 令和3年2月1日 至 令和3年10月31日	自 令和4年2月1日 至 令和4年10月31日	自 令和3年2月1日 至 令和4年1月31日
売上高 (千円)	7,464,295	6,133,714	9,867,535
経常利益 (千円)	932,506	373,907	1,161,572
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	540,669	220,592	638,498
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	654,924	275,192	795,838
純資産額 (千円)	3,549,573	3,491,177	3,690,516
総資産額 (千円)	6,689,664	6,995,546	6,813,776
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	104.07	42.46	122.90
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.9	41.9	45.6

回次	第52期 第3四半期連結 会計期間	第53期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 令和3年8月1日 至 令和3年10月31日	自 令和4年8月1日 至 令和4年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	26.28	9.67

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日）等を適用しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

（1）財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2022年2月1日～2022年10月31日）における我が国の経済は、新型コロナウイルスの第7波とされる急激な感染再拡大が見られたものの、行動制限が課せられない大型連休や夏季休暇を迎えられたことにより、経済活動の正常化に向けた動きが進んでおります。一方、長期化するロシア・ウクライナ情勢等、国際社会の混乱による資源価格の高騰、半導体や原材料の不足、物流の停滞や外国為替市場における円安の進行など依然として不透明な状況で推移しております。

このような経済環境のなか、当社グループはSDGs達成に向けた取り組みの一環として、「ステハジ」プロジェクトを推進しております。このプロジェクトは、「使い捨ては恥ずかしい」という考え方を通して、海洋プラスチック問題や使い捨てから発生する様々な社会課題を解決していくプロジェクトになります。具体的には、企業・自治体やNGOと共に、マイボトルの啓発やビーチクリーンイベントを開催しております。

このプロジェクトのもと、新商品の発売とともに発表会や新サービスの開発、販売活動を行いました。しかしながら、接触制限などによって販売店の営業活動に影響が生じたため、販売展開の拡大に遅れが出ております。

また、フランチャイズ事業における「銀座に志かわ」事業は、高級食パンブームによって「食パン専門店」市場への参入が増加し、レッドオーシャン化が進んだことにより、業績に影響を受けております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,133,714千円（前年同四半期比17.8%減）、営業利益332,747千円（同63.7%減）、経常利益373,907千円（同59.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益220,592千円（同59.2%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

（水関連機器事業）

『家庭用機器』につきましては、「飲料水への安全・安心」に加え、コロナ禍における「健康志向」の高まりを受け、今後、ニーズはさらに高まると予測しております。新製品を投入し、新たなサービスの提供を開始いたしましたが、前述の通り、接触制限などによって販売店の営業活動に影響が生じたため、販売展開の拡大に遅れが出ております。

『水自販機』につきましては、ドラッグストア業界において、エネルギー価格の高騰に伴う経費削減の影響を受け、新店出店時のスペックイン営業にずれ込みが生じております。

『ウォータークーラー機器』につきましては、主な市場である自治体や学校等の施設に対する営業活動自粛の影響を受けました。しかしながら、猛暑の影響や「熱中症対策」として給水スポットであるウォータークーラー機器の需要が拡大しております。なお、熱中症予防対策での需要や昨年開催された東京五輪の施設に導入している実績を基に、2025年開催の大阪・関西万博における関連需要を期待しております。

『衛生管理機器』につきましては、「医・食・獣（動物関連）」に対しての納入実績を活かし、各ジャンルに強いクライアントと連携して営業展開を行い、拡大を進めております。

以上の結果、売上高1,520,591千円（同21.2%減）、営業損失31,967千円（前年同四半期は147,548千円の営業利益）となりました。

(メンテナンス事業)

創立以来52年にわたり実績のあるメンテナンス事業は、当社独自の仕組みであり、継続的な収益を得られるリカーリング型のビジネスモデルであります。メンテナンスには当社が直接訪問するメンテナンスと、販売店を通じて行うメンテナンスの2つがあります。当社が訪問するメンテナンスにおいては、買い換え需要の影響がありました。一方、販売店を通じてのメンテナンスにおいては、副商材の売上が減少いたしております。その結果、売上高1,427,316千円(同4.1%減)、営業利益213,146千円(同32.6%減)となりました。

(HOD(水宅配)事業)

HOD(水宅配)事業につきましては、猛暑の影響並びに熱中症予防の積極的な啓発活動によって、ボトルドウォーターの受注が増加し、順調に推移しております。なお、この活動により、官民一体の国民運動である熱中症予防声かけプロジェクト『ひと涼みアワード2022』にて、トップランナー賞を受賞しております。その結果、売上高1,027,137千円(同3.6%増)、営業利益80,223千円(同57.1%増)となりました。

(フランチャイズ事業)

フランチャイズ事業につきましては、高齢者向けの弁当宅配事業と「銀座に志かわ」事業があります。弁当宅配事業は予定通り推移しております。

「銀座に志かわ」事業においては、7月にアメリカのサンタモニカ店を初の海外店舗としてオープンし、海外展開は順調に推移しております。しかしながら、日本国内ではここ数年は高級食パンブームによって「食パン専門店」市場への参入が増加し、レッドオーシャン化が進み、同時に淘汰の時代へ移行しております。

このような市場環境のもと、「銀座に志かわ」は「アフターレッドオーシャン」に向けて、以下に挙げる加盟店への支援を、施策として打ち出しております。

原材料などの価格が高騰しているが、加盟店向けの値上げは行わない。

新商品を打ち出し、競合店との差別化を図る。

広告を積極的に打ち出し、競合店との差別化を図る。

上記に対する結果は自ずと出てくると予測しております。あわせて、新しいエリアでの積極的な出店をしておりますが、当期につきましては当社もレッドオーシャンの波を受け、影響が出ております。その結果、売上高2,174,889千円(同30.5%減)、営業利益79,057千円(同82.4%減)となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は29,183千円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (令和4年10月31日)	提出日現在発行数(株) (令和4年12月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,500,000	5,500,000	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,500,000	5,500,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
令和4年8月1日～ 令和4年10月31日	-	5,500	-	601,000	-	390,401

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（令和4年7月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

令和4年10月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 304,900	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 5,174,800	51,748	-
単元未満株式	普通株式 20,300	-	-
発行済株式総数	5,500,000	-	-
総株主の議決権	-	51,748	-

（注） 単元未満株式には当社所有の自己株式50株が含まれております。

【自己株式等】

令和4年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社ＯＳＧコーポレーション	大阪市北区天満一丁目26番3号	304,900	-	304,900	5.54
計	-	304,900	-	304,900	5.54

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第４【経理の状況】

１．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第３四半期連結会計期間（令和４年８月１日から令和４年10月31日まで）及び第３四半期連結累計期間（令和４年２月１日から令和４年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,636,041	2,543,146
受取手形及び売掛金	1,047,259	922,438
商品及び製品	280,469	303,721
原材料及び貯蔵品	382,675	434,118
その他	149,094	276,520
貸倒引当金	18,207	18,687
流動資産合計	4,477,332	4,461,257
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,552,733	1,662,052
減価償却累計額	819,466	876,292
建物及び構築物（純額）	733,267	785,760
機械装置及び運搬具	105,972	128,181
減価償却累計額	83,312	96,652
機械装置及び運搬具（純額）	22,660	31,529
土地	723,955	723,955
建設仮勘定	1,450	2,594
その他	549,437	567,169
減価償却累計額	462,588	495,498
その他（純額）	86,849	71,670
有形固定資産合計	1,568,182	1,615,509
無形固定資産		
ソフトウェア	59,476	57,117
借地権	178,000	178,000
その他	9,217	8,940
無形固定資産合計	246,693	244,058
投資その他の資産		
投資有価証券	5,319	40,955
長期預金	7,000	7,000
長期貸付金	9,793	9,394
繰延税金資産	100,017	183,894
その他	419,028	454,780
貸倒引当金	19,590	21,304
投資その他の資産合計	521,567	674,720
固定資産合計	2,336,443	2,534,288
資産合計	6,813,776	6,995,546

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和4年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	364,197	354,256
短期借入金	1,030,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	136,590	106,853
リース債務	13,625	12,495
未払法人税等	124,851	1,723
契約負債	-	426,401
賞与引当金	45,806	90,823
返品調整引当金	1,317	-
その他	450,002	328,938
流動負債合計	2,166,391	2,521,491
固定負債		
長期借入金	255,136	277,860
リース債務	20,839	11,552
役員退職慰労引当金	154,587	158,452
退職給付に係る負債	205,483	198,244
資産除去債務	102,821	114,861
その他	218,000	221,907
固定負債合計	956,867	982,877
負債合計	3,123,259	3,504,369
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,000	601,000
資本剰余金	689,030	688,980
利益剰余金	1,908,063	1,714,273
自己株式	137,332	137,412
株主資本合計	3,060,760	2,866,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	-	506
為替換算調整勘定	45,920	65,643
その他の包括利益累計額合計	45,920	66,149
非支配株主持分	583,835	558,186
純資産合計	3,690,516	3,491,177
負債純資産合計	6,813,776	6,995,546

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年10月31日)
売上高	7,464,295	6,133,714
売上原価	3,629,100	2,834,978
売上総利益	3,835,194	3,298,736
販売費及び一般管理費	2,919,630	2,965,989
営業利益	915,564	332,747
営業外収益		
受取利息	420	927
助成金収入	2,828	3,739
受取補償金	-	11,091
違約金収入	5,980	22,076
その他	19,317	17,498
営業外収益合計	28,546	55,333
営業外費用		
支払利息	3,667	3,652
支払手数料	337	337
為替差損	614	4,005
減価償却費	1,817	1,726
その他	5,167	4,450
営業外費用合計	11,604	14,173
経常利益	932,506	373,907
特別利益		
負ののれん発生益	-	19,257
特別利益合計	-	19,257
税金等調整前四半期純利益	932,506	393,165
法人税、住民税及び事業税	307,270	84,439
法人税等調整額	16,535	53,762
法人税等合計	290,734	138,201
四半期純利益	641,771	254,963
非支配株主に帰属する四半期純利益	101,102	34,371
親会社株主に帰属する四半期純利益	540,669	220,592

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年10月31日)
四半期純利益	641,771	254,963
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	506
為替換算調整勘定	13,153	19,722
その他の包括利益合計	13,153	20,228
四半期包括利益	654,924	275,192
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	553,528	236,769
非支配株主に係る四半期包括利益	101,396	38,423

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。) 等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる主な変更点は以下のとおりです。

(1) 変動対価が含まれる取引に係る収益認識

顧客に対して支払うリベート等の一部については、従来は、販売費及び一般管理費として処理しておりましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

また、従来は、売上総利益相当額に基づいて「流動負債」に計上していた「返品調整引当金」は、返品されると見込まれる商品及び製品についての売上高及び原価相当額を認識しない方法に変更しており、「返金負債」を「流動負債」の「その他」、「返品資産」を「流動資産」の「その他」にそれぞれ含めて表示しております。

(2) 加盟金

従来、加盟店に対してエリアオーナーたる地位やブランド及びノウハウの供与又は経営指導等の提供を目的とした加盟金につきまして、契約時に一括で売上計上しておりましたが、一定の期間にわたり収益認識する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は107,547千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ106,526千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は206,148千円減少しております。さらに、前連結会計年度の連結貸借対照表において「流動負債」に表示していた「前受金」は第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示しております。

なお、収益認識会計基準第89 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 令和2年3月31日) 第28 - 15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。) 等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 令和元年7月4日) 第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り) 及び(追加情報) (新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り) に記載した新型コロナウイルス感染症による影響に関する前提について重要な変更はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 令和 3 年 2 月 1 日 至 令和 3 年 10 月 31 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 令和 4 年 2 月 1 日 至 令和 4 年 10 月 31 日)
減価償却費	84,091千円	98,864千円

(株主資本等関係)

前第 3 四半期連結累計期間(自 令和 3 年 2 月 1 日 至 令和 3 年 10 月 31 日)

配当に関する事項

1 . 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和 3 年 4 月 27 日 定時株主総会	普通株式	181,831	35	令和 3 年 1 月 31 日	令和 3 年 4 月 28 日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発
生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第 3 四半期連結累計期間(自 令和 4 年 2 月 1 日 至 令和 4 年 10 月 31 日)

配当に関する事項

1 . 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和 4 年 4 月 27 日 定時株主総会	普通株式	207,804	40	令和 4 年 1 月 31 日	令和 4 年 4 月 28 日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発
生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自令和3年2月1日至令和3年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水関連 機器事業	メンテナ ンス事業	H O D (水宅配) 事業	フラン チャイズ 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,874,189	1,475,528	987,131	3,127,445	7,464,295	-	7,464,295
セグメント間の内部 売上高又は振替高	54,277	12,545	4,216	-	71,039	71,039	-
計	1,928,466	1,488,073	991,348	3,127,445	7,535,334	71,039	7,464,295
セグメント利益	147,548	316,299	51,076	448,332	963,257	47,693	915,564

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額 71,039千円は、セグメント間取引消去等であります。

(2) セグメント利益の調整額 47,693千円は、セグメント間取引消去等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自令和4年2月1日至令和4年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 （注）1	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）2
	水関連 機器事業	メンテナ ンス事業	H O D (水宅配) 事業	フラン チャイズ 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,509,663	1,427,316	1,021,845	2,174,889	6,133,714	-	6,133,714
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,927	-	5,292	-	16,220	16,220	-
計	1,520,591	1,427,316	1,027,137	2,174,889	6,149,935	16,220	6,133,714
セグメント利益 又は損失（ ）	31,967	213,146	80,223	79,057	340,459	7,712	332,747

（注）1 調整額は以下のとおりであります。

（1）セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額 16,220千円は、セグメント間取引消去等であります。

（2）セグメント利益又は損失（ ）の調整額 7,712千円は、セグメント間取引消去等であります。

2 セグメント利益又は損失（ ）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「（会計方針の変更）（収益認識に関する会計基準等の適用）」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は水関連機器事業で5,770千円増加、メンテナンス事業で2,889千円減少、H O D（水宅配）事業で858千円増加、フランチャイズ事業で103,808千円増加しております。また、セグメント利益又は損失（ ）は水関連機器事業で4,749千円増加、メンテナンス事業で2,889千円減少、H O D（水宅配）事業で858千円増加、フランチャイズ事業で103,808千円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年2月1日 至 令和4年10月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合 計
	水関連 機器事業	メンテナ ンス事業	H O D (水宅配) 事業	フラン チャイズ 事業	計	
水関連機器の製・商品	870,818	428,114	-	-	1,298,933	1,298,933
メンテナンスサービス及び 補修部品	490,887	970,386	-	-	1,461,273	1,461,273
加盟店への製・商品販売	-	-	833,098	1,171,535	2,004,633	2,004,633
直営店での販売	-	-	16,531	650,438	666,970	666,970
その他	147,957	28,815	172,214	352,915	701,903	701,903
顧客との契約から生じる 収益	1,509,663	1,427,316	1,021,845	2,174,889	6,133,714	6,133,714
その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,509,663	1,427,316	1,021,845	2,174,889	6,133,714	6,133,714

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年10月31日)
1株当たり四半期純利益	104円07銭	42円46銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	540,669	220,592
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益(千円)	540,669	220,592
普通株式の期中平均株式数(株)	5,195,137	5,195,051

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和4年12月14日

株式会社OSGコーポレーション

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

奥村孝司

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

須藤英哉

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社OSGコーポレーションの令和4年2月1日から令和5年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和4年8月1日から令和4年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和4年2月1日から令和4年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社OSGコーポレーション及び連結子会社の令和4年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。